

ロック・ユー！

プレアクト情報

PRE-ACT INFO

■シナリオ基本情報

▼作者

SONE (twitter : @sone_99)

▼プレイヤー人数

2～4人

▼想定プレイ時間

3時間

▼シナリオタグ

バンド、青春、ランダムシナリオ

●シナリオレギュレーション

本シナリオの想定レギュレーションを以下に記載する。

▼使用経験点

0～40点

▼使用サブリメント

[TOS] [CTL]

■アクトトレーラー

キャスト作成の前に、アクトのイメージを膨らませるため、以下のアクトトレーラーを読み上げること。これはアクトのイメージを膨らませるのに役立つ。

「バンドメンバー募集、当方……」

募集告知に釣られて集まったバンドマンたち。

目指すは新人バンドの登竜門。

アサクサ六区フェスのルーキーステージ。

だが、その前途にはいくつもの試練が立ちはだかる。

バンド内三角関係！？

音楽性の違いによる解散の危機！？

そしてバグラーレコードの卑劣な罠！

果たして彼らは、栄光を掴むことができるのか。

それは青春の物語。

トーキョーNOVA THE ACCELERATION

『ロック・ユー！』

かくて運命のバンドが結成された。

■キャスト作成

ブレイクシート（アクトトレーラー、ハンドアウトなど）を参考にキャストを作成すること。

●クイックスタート

以下のサンプルキャラクター（*2）を使用する。数字の少ないものから優先して使用すること（例：プレイヤー2人でクイックスタートで作成するなら、地上の天使と現代の騎士を使用する）

『キャスト①』：地上の天使（『BTD』p59）

『キャスト②』：現代の騎士（『TNX』p90）

『キャスト③』：任侠剣士（『TNX』p96）

『キャスト④』：ニューロキッズ（『TNX』p98）

●自動取得技能・装備

キャスト全員の担当パートを決定する。それぞれのキャストはパートに対応した技能を1レベル取得する（すでに同じ技能を取得していた場合、1レベル成長させる） スートを決めること。

- ・ボーカル：〈芸術：歌唱〉
- ・ギター：〈芸術：ギター演奏〉
- ・ベース：〈芸術：ベース演奏〉
- ・ドラム：〈芸術：ドラム演奏〉
- ・キーボード：〈芸術：キーボード演奏〉

加えて、必要なら楽器（『TNX』p253）をひとつ取得できる。これらの取得に経験点は必要ない。本アクトの間のみ取得する。

キャストだけですべてのパートを確保する必要はない。同じパートが複数人いてもよい。足りないパートがある場合、ゲスト（カレン・スカーレット）が任意のパートをひとつ受け持つ。必要ならバンドロイド（『TOS』p141）を任意の数、本アクトの間のみ取得できる。これも経験点は必要ない。

●必要な神業

即死系神業による死亡を防ぐために、2個以上（プレイヤー人数が2人なら1個）の防御系神業が必要だ。また、『チャイ』が必要になるシチュエーションがある。

●必要な技能

情報収集で主に使用する技能は〈社会：メディア〉〈社会：ストリート〉などである。

●アサクサ六区フェスとは？

アサクサ六区（『TNX』p44）で行われるフェス。N◎VA最大のロックの祭典だ。フェス期間中はあちこちに特設ステージが設けられ、世界中から集まったロッカーたちがライブを行なう。中でも“ルーキーステージ”は選考を通過したアマチュアが演奏するためのステージだ。このステージで演奏することは、新人ロッカーの目標であり、最大の名誉となっている。

■キャスト間コネクション

テーブルの時計まわり順に、隣のキャストの〈コネ〉を取得する。

（*1）推奨スタイル：なし

キャストは全員バンドマンとなるが、必ずしもカブキのスタイルを持っている必要はない。音楽やるならカブキは必須だろうって？ そんな思い込みはくそ食らえだ。既成概念を叩き壊すのがロックだ！

とは言い、一人はカブキがいた方がいいぞ。

（*2）サンプルキャラクター

『BTD』掲載のサンプルキャラクターのデータは『TNX』公式サイトにてDLできる。『BTD』自体は使用サブリメントに含めていない。なお地上の天使は、Neuro / Crowd オリジナル・クイックスタート（<http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowd/>）の路上の歌姫に変更してもよい。

アクトハンドアウト

各キャストには下記の設定が推奨・あるいは追加される。
キャスト作成時によくプレイヤーと相談すること。

全員：バンドマンである

共通ハンドアウト

SCENARIO HANDOUT

コネ：カレン・スカーレット

推奨スート：感情

「メンバー募集、当方……」そんな、ごくあり触れたバンドメンバーの募集告知。キミたちはそれに応じたバンドマンだ。募集をかけたカレンは、新人バンドの登竜門であるアサクサ六区フェスに出たいという。キミたちはその話に乗ることにした。こうして、後に伝説となるバンドが結成された。

※推奨スタイル：なし（*1）

【PS：カレンとともにバンド活動をする】

RL用テキスト

TXT 4 RULER

■ストーリー

アマチュアロッカーのカレンは、新人バンドの登竜門であるアサクサ六区フェスのルーキーステージ出場を目標にバンドメンバーを募集する。この募集に集まったのはキャストたち。カレンとキャストたちは、様々な試練を乗り越えて、実績を作り、フェス出場を目指す。

だが、自分たちの新人をルーキーステージで華々しくデビューさせたいバグラーレコード (※3) に目を付

けられる。彼らの魔手がバンドに迫る。また、カレン自身にも秘密があった。

このアクトは、カレンとともにフェスでのライブを成功させることで終了となる。

■クライマックスへの条件

ルーキーステージ最終選考を突破することで、クライマックスフェイズへ移行する。

(※3) バグラーレコード

北米系の悪徳音楽企業。暴力や脅迫、買収などのごり押しで、世界的企業に急成長した。詳細は『BTD』p23に記述があるが、『BTD』がなくてもこの程度の認識でプレイ可能だ。

オープニングフェイズ

OPENING PHASE

●オープニング1: カインド・オブ・マジック

シーンプレイヤー：ルーラーシーン

登場：キャスト登場不可

◆解説

カレンが六区フェスに憧れ、バンドメンバーを募集するシーン。

◆描写1

NOVAのアサクサ六区で行なわれるフェス。その華やかなステージで演奏するバンド。オーディエンスが歓声を上げる。魔法のような熱狂がステージを包んでいた。その片隅で、一人の少女が感動に震えていた。

▼セリフ：少女（カレン・スカーレット）

「……すごい！」「私も、立ちたい。あのステージに！」

◆描写2

数日後。少女はSNSにメンバー募集の告知を出す。

▼セリフ：メンバー募集の告知

「バンドメンバー募集、当方……」

「目標はアサクサ六区フェスのルーキーステージ出場！」

◆結末

ごくありふれた募集告知。それが伝説の始まりだった。次のシーンへ。

●オープニング2: バンド結成！

シーンプレイヤー：任意

登場：キャスト全員登場

◆解説

カレンが集めたメンバーが一同に会し、バンドが結成されるシーン。カレンからバンド参加の動機を問わ

れる。思いつかない場合、バンド参加動機決定表（別項）をDOCすること。

また、バンド名も決定すること。思いつかない場合、『Neuro / Crowds（ニューロな仲間たち）』とする。決まったバンド名は、このシーン以降『バンド名』と表記する。

◆描写

場末の喫茶店で、バンドメンバーの顔合わせが行われる。

▼セリフ：カレン・スカーレット

「えーっと、言い出しつべのカレン・スカーレットです。パートは（キャストの担当外）です」

「私、どうしてもアサクサ六区フェスのルーキーステージに立ちたいんだ」

「新人ロッカーの登竜門。何の実績もない私が目指せる、一番大きなステージ。あそこで演奏できたら、きっと素敵だろうなって」

「みんなのことはまだよく知らないけど、これからいいバンドに育てていこうよ！」

「みんなの名前と、パートを教えて。それと、どうしてこの募集に乗ってくれたのかとか」（自己紹介を促す）

「ありがとう。それじゃあ、一番大事なことを決めようか。バンド名は何にしよう？」

「『バンド名』……いいね、すごくいい。インスピレーションが湧いて来たよ！」

◆結末

こうして、運命のバンドが結成された。次のシーンへ。



バンド参加動機決定表 (DOC)

山札からカードを1枚引くこと。カードの数字を参照し、“バンドに参加する動機”を決定する。項目は選んでもよい (DOC)

2・3・4：モチ

モチたい。バンドマンはモチる。だからバンドやる。他に理由はいらなかった。

5：コネの紹介

取得している任意の〈コネ〉をひとつ選ぶ。キミは選んだ〈コネ〉から、カレンを紹介された。〈コネ〉の顔を立てて、しばらく付き合ってたことにした。

6：憧れ

キミも前回のアサクサ六区フェスのステージを見た。そして、自分もあのステージで演奏したいと思った。あの募集告知から、キミは自分と同じ気持ちを感じ取った。

7：喧嘩別れ

キミは前のバンドで、音楽性の違いから他のメンバーと対立し、大喧嘩の末に脱退した。そこをカレンに請われ、参加することになった。

8：暇つぶし

とにかく退屈していた。日常に刺激が欲しかった。この倦怠を晴らせるものなら、何でも構わなかった。募集を見たのは、そんなときだった。

9：無関心

どのバンドでも構わなかった。メンバーが誰で、ステージがどこだとか、キミには関係ない。キミは自分が音楽をやれるのなら、それで十分だった。

10：付き添い

他のキャストからひとり選ぶこと。キミはそのキャストの付き添いで参加することにした。ヤツがやるのならキミもやる。それだけだ。

J：完全燃焼

キミは音楽の道に挫折した。だが、まだ胸の奥には音楽への情熱が燃えている。こいつを完全燃焼させてやりたい。そうやって初めて、本当に別の道へ進めるのだ。

Q：一目惚れ

キミは街で偶然出会ったカレンに恋してしまった。彼女がバンドをやるのなら、メンバーになれば傍にいられる。不純な動機だって？ いいや、純愛さ。

K：プロ志望

キミはプロを目指している。アサクサ六区フェスのルーキーステージで演奏すれば、きっとスカウトの目に止まる。プロへの道が開けるだろう。

A：運命

カレンの募集に運命を感じた。うまく言葉にできないが、とにかくそうなのだ。

Joker：十字路の悪魔

キミが深夜の十字路で演奏していると、悪魔が現れた。悪魔は、キミにこの募集に応じるよう助言した。キミは悪魔の助言に従うことにした。

ー：任意

リサーチフェイズ

RESEARCH PHASE

●イベント1：音合わせ

条件：リサーチフェイズ最初のシーン

登場：キャスト全員登場

◆解説

アサクサ六区フェスへ出る方法を説明するシーン。その後、キャスト全員で〈芸術〉判定を行なう。目標値は1 2。判定の成否には特に意味はない。失敗して、不要な手札を交換するとよいだろう。

◆描写

かくして結成された『バンド名』。スタジオを借りて、初めての音合わせが行われる。

▼セリフ：カレン・スカーレット

「アサクサ六区フェスのルークステージに上がるには、バンドの技量や実績で選考されない」と

「たくさん練習して、ライブして実績作って、選考を勝ち抜こう！」

「まずは音合わせからだね。それじゃ、3・2・1！」
(キャスト全員が判定に成功した)

「すごい！ 最初からこんなに息がぴったりなんて。これなら行けるよ！」

(1人以上～全員未満のキャスト判定に成功した)

「いいね！ でも、もっと上を目指せるはず。みんなでがんばろう！」

(キャスト全員が判定に失敗した)

「あはは……よーし！ ここまでバラバラだと、逆に燃えてきたよ！」

◆結末

ここから本格的なバンド活動が始まる。[SPS：アサクサ六区フェスに出場する(3点)]を得る。次のシーンへ。

●イベント2：バンカツ(バンド活動)

条件：バンドポイントが8未満

登場：キャスト全員登場

◆解説

キャストたちがバンドとして活動するシーン。バンドイベントを行ない、バンドポイントを獲得する。このシーンは条件を満たす限り何度でも発生する。

◆アクトルール：バンドイベント(*4)

バンドイベントとは、バンド活動で遭遇するさまざまな事件や障害だ。これを乗り越えることで、バンドメンバーの絆を深め、技術を向上させ、実績を作っていく。

シーンプレイヤーは山札からカードを1枚引く。バンドイベント決定表(別項)を参照し、カードの数字に対応したバンドイベントが発生する。イベントの内

容に記述された判定などを行なうこと。なお「ストリートライブ」「メロディ登場」以外のイベントが複数回発生した場合「ストリートライブ」に変更される。

▼バンドポイント

バンドイベントに成功すると、バンドポイント(以下BP)を2点獲得する。

失敗した場合、キャストはそれぞれ[山札1枚+現在のBP]の精神ダメージを受ける。加えてBPを1点獲得する。なお、このダメージによって戦闘不能ダメージを受けた場合、[脱退]となる。

BPはバンドの結束や技量、実績を表現する値だ。これを高めることでアサクサ六区フェスの出場権を得ることができる。BPの初期値は0。4以上になると一次選考を突破。8以上で二次選考を突破し、最終選考であるオーディションに参加できる。

▼脱退

[脱退]は精神ダメージの一種だ。バンドを続ける気力がなくなり、クライマックスフェイズに登場できなくなる。ダメージを治療することで復帰できる。

▼神業

バンドイベントにおいて何らかの神業を使用した場合、そのバンドイベントは成功となる。その際、獲得できるBPは2点ではなく3点となる。

◆描写

アサクサ六区フェス出場を目指して、バンド活動が始まった。さまざまな問題を乗り越えて、バンドとして結束し、技量を高め、実績を作っていくのだ。

◆結末

バンドイベントの処理を終えたら、シーンを終了する。他のイベントシーンの発生条件が満たされているか確認すること。もし満たされていたその場合、そちらのシーンへ移行する。そうでない場合、再度このシーンの発生条件を確認すること。

(*4) バンドイベント

イベントの内容によっては「仲間割ればかりで練習もライブもしていないのに、なぜか実績が積みあがっていく」ような、シュールなことも起こるだろう。これはイベントとして描かれていないだけで、実際にはちゃんと練習やライブを行なっているのだ。イベントをうまく処理することで、練習などの時間を確保し、実績を重ねることができたと解釈するとよい。

No Image

■カレン・スカーレット
エキストラ

▼設定

「体が動く間に、やりたいことをやっておきたい。私にとって、それがバンドなんだ。後悔したくないんだ」

駆け出しのロッカーガール。前回のアサクサ六区フェスをきっかけに、自分もルークステージに立ちたいという憧れを抱き、バンドを結成した。

生来の難病を抱えている。今のところ(このアクトの間は)日常生活や演奏活動への支障はない。六区フェス終了後は軌道の医療クリニックへ上がって手術を受け、療養生活に入ることになっている。

◆バンドイベント決定表

山札からカードを1枚引き、カードの数字に対応したバンドイベントが発生する。イベントの内容に記述された判定などを行なうこと。なお「ストリートライブ」「メロディ登場」以外のバンドイベントが複数回発生した場合「ストリートライブ」に変更される。本文中の「プレイヤー人数÷2」は、すべて端数切り上げとする。

	音楽性の違い
2	音楽性の違いで口論となる。うまく落としどころを見つけなければ、バンドは空中分解してしまうだろう。全員、目標値14の〈交渉〉判定を行なう。[プレイヤー人数÷2]人以上が成功することで、イベント成功となる。
3	バンド内三角関係 バンド内で三角関係が成立してしまう。気まずくて練習もできない。それとなく根回しすることで、フェス終了まで問題を棚上げできる。全員、目標値14の〈他のキャストの〉〈コネ〉判定を行なう。[プレイヤー人数÷2]人以上が成功することで、イベント成功となる。なお、三角関係それ自体は解決できない。
4	仲間割れ メンバー同士で殴り合いのケンカになる。原因とかは好きに決めろ。全員、目標値14の〈白兵〉判定を行なう。[プレイヤー人数÷2]人以上が成功することで、イベント成功となる。成功すると、バンドの絆が深まる。何でそうなるのかって？ 時には暴力でしか解りあえないこともある。
5	メンバーの逮捕 メンバーが逮捕された。誰が何の罪状でとか、冤罪なのか本当にやったのかとかは好きにせよ。ともあれ、保釈金を積んで留置所から出さないと、練習が進まない。そっちの方が問題だ。[プレイヤー人数×2]点の報酬点を支払うことで、イベント成功となる。なお無罪でも、保釈金はアクト中は戻ってこない。
6	メンバーの失踪 メンバーが失踪した。誰か、なぜ失踪したのかは好きに決めろ。自分探しか、いいんじゃないかな。とにかく探して連れ戻さなければ、練習ができない。全員、目標値14の〈知覚〉判定を行なう。[プレイヤー人数÷2]人以上が成功することで、イベント成功となる。
7	メンバーの死 メンバーのひとりが死にかける。ドラッグの過剰投与で、前の恋人に撃たれた、など経緯は好きに決めろ。応急処置をしなければ、そいつは死ぬ。全員、目標値14の〈医療〉判定を行なう。[プレイヤー人数÷2]人以上が成功することで、イベント成功となる。イベント失敗の場合、任意のキャスト1人が「完全死亡」する。
8	繁忙期 メンバーそれぞれの本業（仕事や学業）が忙しくなる。バンドの練習のために少しでも時間を取れるよう、根回しする必要がある。全員、目標値14の〈信用〉判定を行なう。[プレイヤー人数÷2]人以上が成功することで、イベント成功となる。
9	広報活動 バンドのことを知らなければ話にならない。PV動画を作る、音源を配信する、ライブで集客するなどの広報活動を行なう。全員、目標値16の〈社会：メディア〉判定を行なう。[プレイヤー人数÷2]人以上が成功することで、イベント成功となる。
10	猛練習 とにかく練習を重ねる。全員、目標値12の〈芸術〉判定を行なう。[プレイヤー人数÷2]人以上が成功することで、イベント成功となる。
J Q K	ストリートライブ 場数を踏むことでバンドのレベルアップをはかる。ストリートライブで武者修行だ。全員、目標値18の〈芸術〉判定を行なう。[プレイヤー人数÷2]人以上が成功することで、イベント成功となる。成功・失敗に関わらず、全員、取得している〈芸術〉をアクト終了まで1レベル上昇させる。スートを選ぶこと。
A Jo	メロディ登場 メロディ（ITNX p.72）が訪ねてくる。キャストたちの演奏を気に入って会いに来たのだ。メロディは《ファイト！》を使用し、激励する。どのキャストのどの神業に使用するかは、好きに決めろ。2回目以降はメンバーそれぞれに助言を与える。全員、取得している〈芸術〉をアクト終了まで1レベル上昇させる。スートを選ぶこと。このイベントは無条件で成功となるが、得られるBPは1点だけだ。

●イベント3：休息

条件①：BPが2以上になる

条件②：BPが6以上になる

シーンプレイヤー：任意

登場：キャスト全員登場

◆解説

バンド活動の合間で、休息を取るシーン。このシーンは合計2回発生する。このシーンではキャストはそれぞれ1回、メジャーアクションで情報収集や購入判定などを行なうことができる。

◆描写

バンド活動がひと段落し、休息を取るようになった。

▼セリフ：カレン・スカーレット

「ふー、ちょっと休憩！」

「たまには息抜きも必要だよね」

◆結末

判定を終えたら、シーンを終了する。

●イベント4：ドント・ストップ・ミー・ナウ

条件：BPが4以上になる

シーンプレイヤー：任意

登場：キャスト全員登場

◆解説

キャストたちのバンドは、六区フェスのルーキーステージの一次選考を突破する。その直後、カレンが倒れる。カレンから事情の説明を受ける。

◆描写1

バンド活動も軌道に乗って来た頃。カレンがアサクサ六区フェスの一次選考を突破したことを報せにきた。だが、喜びもつかの間。突然、彼女は倒れてしまう。

▼セリフ：カレン・スカーレット

「みんなー！ 六区フェスの一次選考に通ったよ！」

「嬉しい……ほんと、みんなのおかげだよ。おかしいな、ドキドキが止まらないよ。こんなの、ただの通過点なのに……」

「あれ、ほんとおかしいな。頭もくらくらしてきたよ……（倒れる）」

◆描写2

病室のベッドに横たわるカレン。彼女の口から事情が語られる。

▼セリフ：カレン・スカーレット

「びっくりさせちゃったね。私、病気なんだ（*6）」

「黙っててごめん。迷惑かけるつもりはなかったんだ。嬉しくて薬を飲むの忘れちゃった」

「今はまだ薬で抑えられるけど、そのうち日常生活にも支障が出るって」

「もう少ししたら、本格的な治療と手術で、軌道の医

療コロニーに上がるんだ。でも、それでも治るか解らない。手術に失敗する可能性もあるし……」

「その前に、やりたいことをやっておきたい。私にとって、それがバンドなんだ。後悔したくないんだよ」

「……お願い、みんな。私をあのステージへ連れて行って」

「ありがとう。最高のメンバーだよ！」

◆結末

会話を終えたら、シーンを終了する。

●イベント5：シアー・ハート・アタック

条件：[●イベント4]の次のシーン

シーンプレイヤー：任意

登場：キャスト全員登場

◆解説

リッチー・“アックス”・ベックマンの襲撃を受ける。これは一次選考を突破したキャストたちのバンドに対する、バグラーレコードの妨害だ。

ベックマンとのカット進行となる。ベックマンはキャストたちを侮っており、このカット進行では神業を使用しない。シーン終了時に《黄泉還り》で復活する。

◆描写

カレンの病院の帰り道、キャストたちの前に謎のギタリストが立ちちはだかる。ギタリストは超絶テクのギターリフを見せつけると、獷猛な笑みを浮かべる。

▼セリフ：謎のギタリスト（リッチー・ベックマン）

「—————！（超絶テクのギターリフ）」

「俺は、ベックマン。リッチー・“アックス”・ベックマン」

「『バンド名』、一次選考突破だってなァ。おめでとうよ」

「だが残念だったなァ。メンバー再起不能により辞退、ってことになるからなァ！」（襲いかかる）

「てめえらを潰せば、金がもらえるのよ。ま、それだけじゃないがね」

「てめえらの音^{サウンド}なァ、甘っちょろくて虫唾が走るんだよ。潰れちまいな！」

（倒した）「クッ、やるじゃねエガ……」

◆結末

謎のギタリストを倒したら、シーン終了となる。

【リッチー・“アックス”・ベックマン】がリサーチ可能となる。

（*5）カレンの病気

病気の詳細は設定していない。ただ六区フェスまでの間、病状が悪化してバンド活動に支障が出る、ということはない。

●イベント6：プレイ・ザ・ゲーム

条件：BPが8以上になる

シーンプレイヤー：任意

登場：キャスト全員登場

◆解説

二次選考を突破し、最終選考であるオーディションを受けるシーン。だが、バグラーレコードのマティアス・ロックアイスの妨害を受ける。ロックアイスの《買収》により、失格になってしまう。これを《チャイ》する(6)ことで、最終選考を突破し、ルーキーステージに立つことができる。

◆描写1

二次選考も突破したキャストたちは、最終選考であるオーディション会場に呼ばれる。だが、いざオーディションのステージで演奏を始めようとしたその時、思わぬ横槍が入る。スーツ姿の悪戯なエグゼク

▼セリフ：カレン・スカーレット

「いよいよ最終選考だね。ここまで来たら絶対、ルーキーステージに立とう！」

「そんな、オーディションを受けられないって……説明してください！」

▼セリフ：マティアス・ロックアイス

「待たまえ、『バンド名』の諸君。フェス実行委員のマティアス・ロックアイスだ」

「オーディションを受けることは許さない。キミたちはルーキーステージに相応しくない。失格だ。諦めて帰りなさい」

「詳細を説明する義務はない。そうですね、審査員の皆さん」《買収》を使用、ニヤリと笑う

▼セリフ：審査員たち

「う、うむ……バグラーレコードの方がそう言うのなら……」

◆描写②(《チャイ》を使用した)

起死回生の機転が成功し、『バンド名』のオーディションが始まった！

▼セリフ：審査員たち

「どれだけ金を積まれても、やはり音楽に嘘はつけない」

「彼らをステージに上げないなんて、六区フェスの大きな損失だ」

「『バンド名』、最終選考合格だ！」

▼セリフ：マティアス・ロックアイス

「クッ……このままでは済まさんよ」

▼セリフ：カレン・スカーレット

「やった、やったよー！ みんなのおかげだよ！」

◆結末

オーディションを突破したら、[SPS：最高の演奏をする(2点)]を得る。また、[最高の演奏]をリサーチ可能になる。シーン終了となる。

●イベント7：ストーン・コールド・クレイジー

条件：[●イベント6]の次のシーン

シーンプレイヤー：ルーラーシーン

◆解説

バグラーレコードの陰謀を描くルーラーシーン。

◆描写

バグラーレコードのオフィス。オーディション会場から戻ったマティアス・ロックアイスは、無然としてデスクにつく。その傍らにはギターを持った男、リッチー・“アックス”・ベックマン。

▼セリフ：マティアス・ロックアイス

「『バンド名』め。余計な仕事を増やしてくれる」

「超新星のような新人バンドが、華々しくルーキーステージで目立つ。その直後に、我が社との契約を発表する。最高のプロモーション計画が、『バンド名』のせいでインパクトが薄れてしまう」

「引き立て役になってくれるならいい。だが、我が社のバンドより目立つのは困る」

「というわけだ“アックス”。今度はしくじるな」

▼セリフ：リッチー・ベックマン

「OK、パス。次こそ奴らに、ロックの現実を教えてやるぜ」

◆結末

描写を終えたらシーン終了。クライマックスへ。

ニューロエイジのバンドナンバー

キャストたちのバンドは、どんな曲を演奏するのか？これを即興でイメージすることは大変だろう。ここでは、本アクトにおける“ニューロエイジのスタンダードなバンドナンバー”を挙げる。

- **baby don't C'lie**
限られた命を精一杯に生きる少女をテーマとした、生命感溢れるパンクロック。歌詞のニュアンスや曲名の綴りが微妙に異なるバージョンが複数存在する。
- **a Copper a Dozen Story**
しっとりとしたロックバラード。ストリートの殺伐とした日常と、その中に隠れた良心や人間性を歌い上げる。同名の映画の主題歌として脚光を浴びた。
- **暗黒街の夜明け (Daybreak)**
うらぶれたストリートから成り上がろうとする、若者たちの夢と野心を描くハードロックナンバー。北米ニュー・フォートで特にヒットした。
- **イナガキフォンの王子様**
イナガキフォンを愛用する野暮ったい年下の男の子とのロマンスを歌う、甘めのアイドルソング。売り出し中のアイドル・シュシはこの曲でブレイクした。バンドアレンジ版はガールズバンドの演奏曲の定番だ。
- **弾丸のサンタクロース**
ハイテンポでゴキゲンなクリスマスナンバー。クリスマスでは、この曲を流しながら事故る自称サンタクロースが後を絶たない。バンドアレンジ版はクリスマスでなくてもよく歌われる。
- **ヌーディストの呼び声**
邪神ヌーディストに捧げる血の讃美歌というコンセプトのヘヴィメタルナンバー。この曲を聞くと、なぜか無性に服を脱ぎたくなるという。大衆洗脳兵器認定されており、公共の場での演奏は国際法で禁じられている。

■情報項目

リサーチフェイズ開始時に調べることが出来る情報項目は以下のとおり。

全員共通：ルーキーステージ

◆ルーキーステージ

〈社会：メディア、ストリート〉

- 10 ルーキーステージに立つには、実績による一次・二次選考を通過し、最終選考のオーディションを突破しなければならない。
- 12 【バーグラレコード】が自分たちの新人にハクをつけるために、このルーキーステージを利用しようとしている。
- 14 選考に残りそうな有力候補のバンドが、【ギターを持った荒事屋】の襲撃を受け、次々に辞退している。

◆バーグラレコード

〈社会：メディア、企業〉

- 10 北米系の悪徳音楽企業。犯罪まがい（あるいは犯罪そのもの）の手法で利益を上げている。
- 12 六区フェスにも出資しており、ルーキーステージの選考審査にも影響力を持っている。六区フェス実行委員会に【マティアス・ギルダー・ロックアイス】を送り込んでいる。

◆マティアス・“ギルダー”・ロックアイス

〈社会：メディア、企業〉

- 10 バーグラレコードのエグゼク。新人発掘に定評がある。
- 13 無名の新人を強引な手法でデビューさせて売り込み、商品として搾れるだけ搾り取って捨てるビジネスモデルで知られる。「本物より鍍金した偽物の方が売やすい」と広告しており、ついたあだ名は“鍍金屋”。
- 16 スタイルはエグゼク◎●、レッガー、トーキー。子飼いの部下に【リッチー・“アックス”・ベックマン】という荒事屋がいる。
- 18 (プレイヤー人数が2人の場合、この情報は使用しない) 神業変更技能(記録者)を持つ。

◆ギターを持った荒事屋

〈社会：ストリート、警察〉

- 12 【リッチー・“アックス”・ベックマン】というストリートの荒事屋だ。どこかの企業に雇われて動いている。

◆リッチー・“アックス”・ベックマン

〈社会：ストリート、警察〉

- 15 ストリートの荒事屋。才能あるギタリストだ

だが、生来の暴力衝動を抑えきれず暴行殺人を繰り返し、表舞台を追われた。得物は戦闘用に改造されたギター。現在は【マティアス・“ギルダー”・ロックアイス】の子飼い。

- 18 スタイルはカブキ◎、カタナ●、チャクラ。

◆最高の演奏

〈芸術〉〈社会：メディア〉

- 12 ルーキーステージで〈芸術〉目標値21の判定に成功するか、任意の神業を1回使用する。これをキャスト全員が達成させることで、最高の演奏が実現する。



RLガイド

本シナリオは「キャストたちがバンドを組んで大舞台でライブを行なう」というだけの、シンプルな内容だ。音楽関係の知識がなくても楽しめるように作っている。気負わず気楽に楽しんでもらいたい。

参考資料としては『リンダ リンダ リンダ』(映画)や『BanG Dream!』(アニメほか)などのバンドものの諸作品が挙げられる。

◆ランダムイベント

本シナリオの主要なギミックとなるのが、ランダムイベント(バンドイベント)だ。ここを盛り上げることで、アクトはより楽しいものとなる。そのためのTIPSを紹介する。

▼イベントを膨らませる

バンドイベントの内容は最小限の記述となっている。RLはプレイヤーと協力し、どのようなイベントなのかイメージを膨らませて描写・演出するとよいだろう。以下は、筆者がRLした際にイベントを膨らませた例だ。参考にしてほしい。

・メンバーの失踪

キャストではなく「エキストラのバンドロイドがゴミ収集車に回収され行方不明になる」とアレンジされた。〈知覚〉判定は「夢島のゴミ処理場を漁って見つけ出す」判定になった。その結果、ゴミの中でマキノイドとして覚醒し、真のロッカーとなったバンドロイドと再会する感動のシーンが生まれ、大いに盛り上がった。

・仲間割れ

この卓ではキャストに「ドラッグ中毒で表舞台を追われたカブキ」がいた。そのキャストが「怪しい白い粉末を持っていた」ことを、「またドラッグに手を出した」とメンバーが誤解し、殴って取り上げようとするという流れになった。なお白い粉末は「から揚げを作るための小麦粉」であり、殴り合いの後メンバーみんなで仲直りの唐揚げを作るという、心暖まるシーンとなった。

・描写しない

逆に、細かく描写する必要を感じなかったため、判定のみのシーンとして軽く流したイベントもあった。RLは膨らませられるシーンとそうでないシーンを見極め、メリハリをつけて演出するとよいだろう。

▼山札

山札を使う関係上、手札や捨て札の兼ね合いで「絶対に発生しないイベント」が出る可能性がある。イベントの決定でAやジョーカーが出た場合、プレイヤーががっかりすることもあるだろう(そのためイベントの内容は、プレイヤーの利益になるものになっているが)定期的に捨て札を山札に戻し、シャッフルするとよい。バンドイベント決定用の山札を別に用意するのも手だ。

クライマックスフェイズ

CLIMAX PHASE

●アナザーワン・バイツァ・ダスト (*7)

◆解説

バーグラレコードの最後の妨害を突破するシーン。ロックアイスが《不可触》を使用し、人払いさせる。その後、カット進行となる。敵はロックアイス、ベックマン、レガートループ (TOSI45) 15人2グループだ。ロックアイスは中距離、近距離にベックマンとトループのエンゲージが位置している。勝利条件は、ゲストを倒すことだ。

◆描写

アサクサ六区フェスが始まった。六区のあちこちの特設ステージでライブが行われ、観衆は音楽に聞き惚れている。ルーキーステージへ向かう『バンド名』のメンバーたち。だがその前に、バーグラレコードの手の者たちが立ちはだがる。

▼セリフ：カレン・スカールレット

「いよいよ六区フェスだね……緊張してきたよ」

▼セリフ：マティアス・ロックアイス

「おっと、キミたちはステージに立てない。ここで“事故”にあうことになってるからな」「助けを呼んでも無駄だ。人払いをしてあるのでね《不可触》を使用」

「一応、最後に提案しておこう。辞退したまえ。我が社のバンドのプロモーションの邪魔をしないなら、殺しはしない。病院送りぐらいで済ませてやろう」(断った)「ならば仕方ない。“アックス” やってくれ」(倒した)「こんな、ゴミのような連中に……」

▼セリフ：リッチー・ベックマン

「最高のミュージックを聞かせてやる。曲名は“『バンド名』の最後”だ！」

「夢や希望に満ちたクソ野郎どもが、絶望に沈んでいくのを見るのは気分がいいぜえ〜！」

(倒した)「何がロックだ。くだらねエ……」

◆結末

バーグラレコードの妨害を突破したら、次のシーンへ。

●ウィ・ウィル・ロック・ユー

◆解説

ルーキーステージでライブを行なうシーン。キャスト全員、〈芸術〉目標値21の判定を行なう。これに成功するか、何らかの神業を1回使用することで“最高の演奏”を実現することができる。全員が“最高の演奏”を実現することで、[SPS:最高の演奏をする]の達成条件を満たせる。

◆描写

ついにルーキーステージに立つ『バンド名』。観客が演奏の開始を、今か今かと待っている。カレンはメンバーたちに感謝を伝える。

▼セリフ：カレン・スカールレット

「……何だか、夢みたいだよ」

「みんな、ありがとう。私ひとりじゃ、ここまで辿り着けなかった。色々あったけど、このメンバーでバンドやれて、本当によかった」

「これが『バンド名』、最後のライブ。悔いの残らないよう、最高のステージにしよう！」

▼セリフ：観客たち

「『バンド名』か、知らないバンドだな」

「おっ、これ……」「いいじゃないか……」

「ルーキーステージで、すげえのが演(や)るぜ！」

「『バンド名』！『バンド名』！『バンド名』！」

◆結末

その日、『バンド名』は伝説となった。判定を終えたら、エンディングフェイズへ移行する。

■エンディングフェイズ

●ショウ・マスト・ゴー・オン

伝説となった六区フェスの後、カレンは軌道の医療コロニーへと上がった。それぞれの日常に戻ったメンバーたちの元へ、療養中のカレンからのメールが届く。「最高に楽しかったよ。また、やろうね！」

彼女の願いが現実にもとなるかは、また別の物語だ。

(*7) プレイヤー人数が少ない場合

プレイヤー人数が2人の場合、トループは1グループとなる。また、ロックアイスのデータから《暴露》を削除する。詳細はゲストデータを参照。

リッチー・“アックス”・ベックマン

カブキ◎、カタナ●、チャクラ

▼設定

「夢？ 希望？ そんなものクソ食らえだ！

このリッチー・ベックマンが求めるモノはただ一つ！
破壊……ッ！」

バーグラレコード子飼いの荒事屋。得物は愛用のギター(アックス)。数々の暴力事件を起こし、音楽シーンを追放された元ギタリスト。その経歴からロックを憎み、前途あるロッカーを再起不能にすることに歪んだ喜びを覚える。人間のことを食料としか思っていない、傲慢で典型的な悪のヤアカシ。

▼神業

☐チャイ ☐死の舞踏 ☒黄泉還り

▼能力値 / 制御値

♠理性：4 / 12 ♣感情：6 / 14
♥生命：8 / 14 ♦外界：4 / 8

▼戦闘データ

[CS] 9 [AR] 1
[防御力] S:0 / P:0 / I:0

▼一般技能

3♠♣♥◇ 芸術：ギター演奏
2◇♣♠◇ 自我
2◇♣♠◇ 回避
3♠♣♥◇ 白兵

▼スタイル技能

2◇♣♥◇ マエストロ (TNX211)
2◇♣♥◇ ファッションリーダー (CTL60)
2♠♣♥◇ ハヤブサ (TNX204)
3♠♣♥◇ 無風剣 (TNX205)
2◇♣♥◇ 鉄拳 (TNX211)
2♠♣♥◇ コミックヒーロー (TNX181)

▼アウトフィット

・クラウザー……電：22 / 隠：- (TOS136)
攻：S+7、受：4、射：至近。白兵武器として使用できるギター。
・ギターケース……電：14 / 隠：15 (TOS134)
キャバブル相当。
・刺青……電：- / 隠：- (TNX251)
“Fuck'n Rock'n Roll”と刻まれたタトゥー。

▼戦闘プラン

セットアップに〈ハヤブサ〉を使用、CS+ [カードの数字] (1シーン1回)
メインプロセスでは〈白兵〉〈芸術：ギター演奏〉〈無風剣〉〈鉄拳〉による攻撃を行なう。達成値+2、攻撃力はS+13、ダメージに+ [差分値] する。
肉体・精神ダメージを常時3点軽減。さらに〈コミックヒーロー〉で [カードの数字] 点軽減する (1カット1回)

マティアス・“ギルダー”・ロックアイス

エグゼク◎●、レッガー、トーキー

▼設定

「本物の“黄金”は、何かと扱いづらいのだね」

バーグラレコードのエグゼク。新人発掘に定評がある。無名の新人を強引な手法でデビューさせて売り込む。新人の“商品”としての寿命は短く、利益を絞られるだけ搾り取って使い捨てる。「本物よりメッキした偽物の方が売やすい」と広言しており、ついたあだ名は“鍍金屋 (ギルダー)”。

▼神業

☒買収 ☒不可触 ☐暴露

▼能力値 / 制御値

♠理性：6 / 14 ♣感情：6 / 12
♥生命：4 / 10 ♦外界：6 / 12

▼戦闘データ

[CS] 8 [AR] 1
[防御力] S:0 / P:0 / I:0

▼一般技能

3♠♣♥◇ 交渉
3♠♣♥◇ 心理
1◇♣♥◇ コネ：ベックマン

▼スタイル技能

1◇♣♥◇ 記録者 (CTL80)
3◇♣♥◇ 虚言 (TOS99)
3◇♣♥◇ 用心棒 (CTL76)
3♠♣♥◇ 威圧 (TNX212)
2♠♣♥◇ キューサイン (CTL80)
2♠♣♥◇ 度胸試し (CTL76)

▼アウトフィット

・閃鋼……電：16 / 隠：15 (TNX241)
神経加速装置。セットアップに使用、CS+6。
・夕霧……電：14 / 隠：- (TNX250)
上物の高級スーツ。

▼戦闘プラン

セットアップに閃鋼を使用、CS+6。
メインプロセスでは〈キューサイン〉を使用。ベックマンを行動させる。ベックマンが倒れたら、〈心理〉〈交渉〉〈威圧〉による精神攻撃を行なう。達成値+3、ダメージ+6。
肉体・精神ダメージは〈度胸試し〉で [カードの数字] +6点軽減する (1カット1回)
〈暴露〉は〈記録者〉で効果を書き換え、ベックマンに〈死の舞踏〉を使用させる。プレイヤー人数が2人の場合、〈記録者〉は削除する (〈暴露〉はキャストたちを倒した後、自社のバンドを華々しくアピールするために使用することになるだろう)